

直流電気鍼の扱い方 －刺激の種類と効果－

首都医校 江頭 至光

良導絡自律神経調整療法では、鍼柄が長い特殊な鍼を用いて、直流マイナス通電を7秒間行います。直流マイナス通電の効果は、即効性があること、効果持続が長いことがわかっており、直流マイナス通電7秒は置鍼20分に相当すると言われていています。

鍼柄が長い鍼は、通電しやすいという特徴を持っています。しかし、その長さ故に扱い難いと感じている方もいらっしゃると思います。

そこで、本講演では、直流電気鍼の持ち方、刺鍼方法・刺激の強弱を実技で紹介します。

<基本刺鍼>

鍼の持ち方、押手、切皮、切皮深度、刺入のリズム、刺入深度
手指・手首の使い方

<刺鍼の方向>

直刺、斜刺、横刺

<刺入の方法>

通電せずに刺入、通電しながら刺入、断続通電しながら刺入

<主な手技>

弱刺激：隋鍼法、雀啄（ゆっくり動かす）

強刺激：速刺速抜、雀啄（素早く動かす）

<通電の方法>

連続通電、断続通電

直流電気鍼は、鍼灸施術のひとつの方法であり、そこに先生方の経験から得られた手技を加えることにより、患者さんの症状の緩解に寄与できると思います。

以上